

# 開成の杜

第94号 ●2014年6月12日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所／学校法人郡山開成学園 〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎ 024(932)4848(代) <http://www.koriyama-kgc.ac.jp> ●発行人／学園長 関口 修



学園の春

(撮影 山口郁生)

## 衣更えの時期に思う。



理事長・学園長  
関口 修

古来、衣更えは時代にもよるが、平安朝では数度にわたる衣更えがあったらしいし、江戸時代には4月1日と10月1日が衣更えの日となっていたようである(広辞苑)。

現在の暦では6月1日と10月1日となっているが、クールビズと云う服装表現が出現し、さらにはウォームビズとなり、衣更えにまつわる季節感や情緒性もなく、軽装を喜ぶ風習が生まれた。この風習は軽装なるが故に喜ばれているのだろうか？温暖化等の気候変動に伴い、資源不足の我が国にあっては、冷房や暖房を節減すると云う目的の美名によって、衣服の持つ文化性が失われようとしているように思う。しかし、分析的に観察すると、次のようなことに気が付く。それは、適宜適切な服装を心がけてい

る人々の一群と乱れがちになっていく人達の一群には大きな開きが生まれていることである。これは教養の有無によるのであろうが、気品のある服装は周囲に安定感を育んでいる。

この頃は好まれない言葉のようだが、衣食足りて礼節を知るといふ伝えは死語になったのかもしれないが、人間として大切な言葉である。この頃、本学の学生・生徒の服装を俯瞰すると心から清々しいとの感を深くするが、これは一重に制服ばかりではなく、平素の服装と同様である。教養が感じられる服装は素晴らしい。

以前、一部の若者の服装が云々されたことがあったが、近頃は中年世代に乱れがあるとも言われだしている。其々の世代を反映しての服装なれども、乱れなき社会を構成すべく努めねばなるまい。服装に限らず事柄の軽重に限らず、重みを自覚しなければと思う。

# 学校法人 郡山開成学園 創立68周年を祝う 品位ある学生としての成長を

桜花爛漫、花吹雪舞う4月22日、学校法人郡山開成学園は創立68周年記念日を迎えた。式典では、会場の建学記念講堂を埋めた15000人が、郡山開成学園オーケストラの演奏で記念式典歌を歌い、祝った。



「若者賛歌」を合唱する教職員一同

関口修学園長は式辞の中で「建学の精神である『尊敬・責任・自由』をもとに、自分に対して忠実で、日々の修学を積み、英知を養い、品位ある学生としての成長を望む」と話した。



第68回創立記念日

この後、教職員全員2000名が壇上に並び、若者賛歌「吾子よ」を歌い、学生・生徒応援歌「青春の確かさを今」を合唱した。

式典の後、平成26年度第1回教養講座が開かれた。講師は読売新聞東京本社メディア局総務福士千恵子氏で、「女性の100年とメディアの変化」と題して講演し、学生や教職員ら約1500人が熱心に聞き入った。



講演する福士千恵子さん

福士さんは、読者の相談に答える読売新聞のコラム「人生案内」が今年100年を迎えたことを紹介、「読者自身の問題解決のための参考となっている。これからはネットメディアを上手に使い、相手に分かるような言葉にする努力が必要である」と語った。



関口 修理事長・学長

## 関口修理事長・学長が 日本私立短期大学協会会長に就任

5月15日、東京千代田区のホテルグランドパレスで日本私立短期大学協会の総会が開かれ、役員改選で郡山開成学園理事長・郡山女子大学・同短期大学部学長の関口修氏が会長に選ばれた。

324校が加盟している。任期は2年。関口氏は昭和15年9月生まれ。73歳。米インディアナ州立大教育学部大学院修了後、昭和43年に郡山女子大講師に就任、平成6年に教授、15年に郡山開成学園理事長、23年には同学園長に就いた。平成16年から日本私立短期大学協会の副会長を務め、東日本大震災や東京電力福島第一原発の事故から私立短期大学の復興に尽力してきた。総会の席上、関口新会長は「全会員の力を結集し、様々な難局を乗り切ろう」と抱負を語った。



真剣に担当者の説明を聞く学生たち

## 学内企業説明会に 多数の参加者

大学の3年生と短期大学の1年生を対象とした、学内の企業説明会が2月10日、マリールームで行われた。学生200人が就職活動の第一歩を踏み出した。

## 永年勤続者表彰

記念式典で永年勤続を称える表彰が行われ、11名に記念品と金一封が贈呈された。受賞者を代表して短大・幼児教育学科の三瓶令子教授が「これからも学園のために、力を尽くしていきます」とお礼の言葉を述べた。

表彰者は次の通り。(敬称略)

- 【勤続40年】  
▲家庭療/本田 徳通
- 【勤続30年】  
▲短大/三瓶令子 仲田 佐和子  
▲高校/桜川 敦子
- 【勤続20年】  
▲大学/大泉 由美  
▲高校/佐藤 千賀子  
▲事務局/井上 英子
- 【勤続10年】  
▲大学/武井 玲子  
▲短大/古山 幹雄 横溝 聡子  
▲事務局/七海 淳子



表彰された皆さん

会場には参加企業26社がそれぞれブースを設け、人事担当者が企業概要や採用情報などを詳しく説明していた。学生らはブースを回り真剣な表情で担当者の話に聞き入っていた。  
25年度の本大学・短期大学の就職率は共に99%だった。

## 平成25年度 附属高校進路先一覧 平成26年3月31日現在(在籍155名)

### ◎郡山女子大学(20名)

進路先	人数
郡山女子大学 家政学部人間生活学科 生活総合コース	5
郡山女子大学 家政学部人間生活学科 福祉コース	6
郡山女子大学 家政学部人間生活学科 建築コース	4
郡山女子大学 家政学部食物栄養学科	5

### ◎郡山女子大学短期大学部(48名)

進路先	人数
郡山女子大学短期大学部 家政科福祉情報専攻	13
郡山女子大学短期大学部 家政科食物栄養専攻	6
郡山女子大学短期大学部 幼児教育学科	15
郡山女子大学短期大学部 生活芸術科	7
郡山女子大学短期大学部 音楽科	1
郡山女子大学短期大学部 文化学科	6

### ◎他短期大学(2名)

進路先	人数
国際短期大学 コミュニケーション学科	1
戸板女子短期大学 食物栄養科	1

### ◎他大学(28名)

進路先	人数
福島大学 人文社会学群 経済経営学類	1
福島大学 人文社会学群 人間発達学類 スポーツ・芸術創造専攻	1
秋田公立美術大学 美術学部 美術学科	1
宮城大学 看護学部 看護学科	1
東北文教大学 人間科学部 こども教育学科	1
尚絅学院大学 総合人間科学部 現代社会学科	1
仙台大学 体育学部 現代武道学科	1
東北福祉大学 総合福祉学部 社会教育学科 学校教育コース	1
東北文化学園大学 医療福祉学部 保健医療学科 保健医療コース	1
奥羽大学 薬学部 薬学科	1
日本大学 工学部	2
福島学院大学 福祉学部	2
群馬パース大学 保健科学部 理学療法学科	1
大妻女子大学 人間関係学部 人間関係学科 社会学専攻	1
嘉悦大学 経営経済学部 経営経済学科	1
日本体育大学 体育学部 体育学科	1
江戸川大学 社会学部 人間心理学科	1
淑徳大学 総合福祉学部 教育福祉学科 健康教育コース	1
聖徳大学 心理・福祉学部 心理学科	1
明海大学 不動産学部 不動産学科	1
浦和大学 こども学部 こども学科	2
城西大学 理学部 数学科	1
鎌倉女子大学 教育学部 教育学科	1
女子美術大学 美術学部 美術学科 日本画専攻	1
京都ノートルダム女子大学 人間文化学部 人間文化学科	1

## 平成25年度 附属高校における進路状況について

平成25年度、本校卒業生の進路決定率は、約97%(150人/155人中)であり、一昨年度より6%高まった。しかし、目標の100%を達成することができなかったことは残念である。進路先の内訳は、進学が8割で、就職が2割であった。進学では、郡山女子大学及び短期大学部に68人合格したのを含め、大学へ48人、短期大学へ50人が進学した。昨年度の進路指導の傾向としては、高大連携生入学者選抜にプレテストが導入されたことにより、本学志向が高まったこと、そして国

公立大学へ4名合格したことが挙げられる。  
就職に関しては、昨年よりも順調に内定をいただき、ほぼ全員が希望する就職先に合格した。その要因は、景気が上向きになり、高校生向けの求人が増えたことが大きい。今後ともミスマッチのない職業選択に心を配りながら就職指導を進めていきたい。今年度もすべての生徒の進路決定に向けて全教職員が一致団結して取り組み、生徒全員の合格のために力を尽くしたい。

### 春のオープンキャンパス開催 3000人が参加

春のオープンキャンパスが3月16日に開催され、県内外の高校1、2年生と父兄など3000人が参加した。本学の魅力に早めに直接触れてもらうと、例年に比べて3ヵ月早めにスタートした。参加者は学科・専攻別に授業体験に臨んだ。大学・食物栄養学科では健康を食から支える「管理栄養士」の仕事について、短大・生活芸術科ではデザイン・絵画・彫刻などを体験した。

オリエンテーションでは関口学長が「今日はじっくりと学内を見学してください」と歓迎のあいさつ。附属高校バレーボール部の佐藤浩明監督が「日本と海外の違いを体験して視野を広め、いろんなことにチャレンジしよう」と呼びかけた。

今回も「福島・二本松・本宮」「白河・吹・須賀川」「小野・船引・三春」「喜多方・会津若松・猪苗代」「棚倉・石川」からの無料送迎バスを運行、どのコースもほぼ満席の盛況だった。

- 26年度のオープンキャンパスの日程は次の通り。
- ・第1回 6月15日(日)
  - ・第2回 7月12日(土)
  - ・第3回 9月7日(日)
  - ・第4回 10月4日(土)・5日(日)

※もみじ会開催中  
※詳しくは、ホームページかリーフレットをご覧ください。

### 方部別教育懇談会 今後の日程決まる

教育の充実を目指して、学園長をはじめ本学の教員と父兄が懇談する方部別懇談会が、今年もまた下記の日程で開催されることが決まった。

懇談会では家族会会長の挨拶、学園長による学園教育の基本方針について、また、教務部、学生生活部、就職部の各担当者から説明が行われる予定。個人面談では大学・短大のアドバイザーと身近な、より具体的話し合いが予定されている。

例年、どの会場でも熱心な懇談風景がみられ、今年も実りある成果が期待されている。日程は次の通り。

- 6月28日(土) 南東北方部会
- 7月5日(土) 郡山方部会
- 7月13日(土) 北東北方部会
- 7月19日(土) 福島方部会
- 会津方部会
- 7月21日(日) 県南方部会

### 図書館・62年館にラン「リモ室

本学は、「尊敬・責任・自由」を教育理念に掲げ「人間守護」を基に、すぐれた人格と教養を持つ女性を輩出するべく、常に時代に呼応した形の教育プログラムを実践してきた。平成12年度から高度情報化社会やユビキタス社会に代表される新しい時代の人間生活の充実発展に寄与できる人材育成を目的に、学生全員に対しノート型パソコンの無償貸与を行っており、これまで、eラーニング・無線LAN環境の拡充・情報コンセント設備整備・無償パソコン検定資格取得講座の開設・学内ポータルサイト(授業支援システム)による双方向システム構築等、様々なICT学習環境の整備を実施してきた。

これまで実践してきたICTの有用性を最大限に活用した学生・教員の時間・場所を超えた双方向性と、従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し、解を見出し、いく動的学習(アクティブラーニング)との融合が必要とされている。学生には授業のための事前準備・授業受講・事後展開を通して主体的な学習に要する総学習時間の確保、教員には学生の主体的な学習の確立のために、教員と学生あるいは学生同士のコミュニケーションを取り入れた授業方法の工夫、十分な授業の準備、学生の学修へのきめ細かい支援が求められる事から、アクティブラーニングのための場所を確保し、これらを具現化できる施設、設備を整備した。

## 特集 研修紀行

### 大学・短期大学部

大学と短大は、今年も各学科の特徴を生かした研修旅行を行った。学んだ新しい知識や世界観はこれからの学習に大いに役立つことだろう。

#### 【日本の食文化に触れて】

大学・食物栄養学科2年 長沼 美帆  
福島ではまだ雪が残る2月の下旬、私たち食物栄養学科10名は、京都へ2泊3日の研修旅行へ行ってまいりました。研修の目的は日本の食文化を実際に食べたり作ったりなど体験を通して学ぶというものでした。福寿園では、石臼での抹茶づくりを体験しました。深い味わいを出すための挽き方、抹茶のたて方などを学びました。甘春堂では、和菓子作りをしました。春を感じさせる梅、鶯など全部で4種の和菓子を作りました。食文化ミュージアムでは京の食文化について学びました。無形文化遺産に登録された和食の原点とも言える京料理、京都の長い歴史と四季折々の自然の中で世代を越えて育まれた京の食文化、和食を折に触れ、学ぶことができました3日間でした。研修を支援してくださいました学園、先生方、両親に感謝し、これからの学びにつなげていきたいです。



日本の食文化を堪能

#### 【美術研修旅行の思い出】

短大・生活芸術科1年 佐々木 里佳子  
2月8日から10日までの2日間、私たちは東京へ美術研修旅行に行つて参りました。数10年に一度と言われる大雪だったため心配しましたが、六本木の美術館や溜池の文化施設などをほぼ予定通り巡ることができました。四季劇場で鑑賞した「ライオンキング」は、役者の方々の熱い演技に圧倒され、舞台美術・音楽・衣装なども工夫されていて迫力があり、とても感動しました。また、国立新美術館で見た「文化庁メディア芸術祭受賞作品展」の「Airy Me」という作品は、可愛らしい絵柄とは裏腹に少し不気味な世界感が映像技術を駆使してうまく表現されており、強く印象に残りました。

#### 【研修旅行の美術館巡り】

短大・文化学科2年 山崎 友理子  
私たち文化学科は2月末、4泊5日の研修旅行で出雲、倉敷、京都、伊勢と由緒ある土地を訪れました。その中の目玉は式年遷宮を経た新しい出雲大社、伊勢神宮を参拝することでしたが、文化学科の特質としてその他にも有名な美術館を訪れることも研修旅行の大事な点でした。出雲の足立美術館、倉敷の大原美術館という全国的にとっても有名な美術館を見学しました。近くに住んでいるのなら、まだしも、地方に住んでいる私たちにとっては滅多にない機会です。全世界で名を馳せている有名な画家の絵画を数多く見ることで、



全国的に有名な大原美術館前で

#### 【研修旅行を終えて】

短大・家政科食物栄養専攻1年 寺山 真帆  
1泊2日東京方面への研修旅行に参加しました。横浜中華街で中国の食文化を学び、味の素株式会社川崎工場を見学し、ホテルニューオータニでテーブルマナーを学び、イタリア文化会館でイタリアの食文化を学びました。ホテルの厨房見学では、普通は立ち入ることのできないバックヤードにおいて、調理した料理がどのような形でお客様へ提供されるのか、スタッフの方に説明していただきました。



見学した国立新美術館前で

#### 【神戸・大阪・京都への研修旅行】

短大・家政科福祉情報専攻1年 高橋 美絵  
私達は、2月中旬に2泊3日で関西方面へ行きました。神戸の「人と防災未来センター」では、阪神淡路大震災の映像を見て地震の凄さに衝撃を受けましたが、19年が経過した現在の神戸の様子を見て、東北も少しずつ復興へ向かうのだと思いました。北野異人館散策では、景観の美しさに感銘を受け、ホテルではテーブルマナー研修を受けました。附属高校の時に体験しましたが、あらためて学んだ点もありました。



浅草寺前にて



風見鶏の館前で

334人 希望の春 大学・短大・専攻科

開成の杜の桜が咲き始めた4月5日、郡山女子大学院修士課程第22回、郡山女子大学第49回、郡山女子大学短期大学部第65回、同専攻科第15回の入学式が建学記念講堂で行われ、334人が新たな第一歩を踏み出した。

入学



附属高等学校

附属高等学校第58回入学式が、学園の桜が満開となった4月8日、建学記念講堂で行われた。真新しい制服姿の新入生は普通科77名、音楽科10名、美術科16名、食物科30名の総数133名。



附属幼稚園

附属幼稚園の入学式が4月10日に行われた。年少組28人、年中組5人の33人が新たに仲間入りした。園児一人ひとりの名前が呼ばれたあと、賀門園長が「お友だちをたくさんつづけて元気に遊ばせよう」と呼びかけた。続いて年長組からのお祝いの言葉と手作りのペンダントがプレゼントされた。新入園児は大きな声で「幼稚園のお約束を守りよい子になります」と誓った。最後に在園児と新入園児で園歌「ふぞくのこども」を元気に歌った。

Center section with the slogan 'ようこそ開成の杜へ 自らを磨いて“美しい私”を創りましょう' and four student profiles: 志願した理由 (Reasons for applying) for four students from various departments.

卒業

蛍の光に送られて

大学院・大学・短期大学 寒さも和らぎ春を感じ始めた3月18日、郡山女子大学第45回、短期大学部第63回、短期大学部専攻科第13回の卒業式・修了式が建学記念講堂で行われた。

学は精神である尊敬・責任・自由を心に留め置き、ここで得た知識をさらに磨き上げ社会に貢献してほしいと述べた。来賓の品川萬里まさ

附属高等学校 ひな祭りの3月3日、建学記念講堂にて第55回卒業式が挙行された。

賞8名、皆勤賞29名、精勤賞9名が表彰された。八幡文明校長は「卒業おめでとう。家族や先生方に感謝し、心身ともに健康に留意して着実に歩いて下さい」と告辞を述べた。

附属幼稚園 第59回の卒園式が3月19日、建学記念講堂小ホールで行われた。

また、園内で咲いていると同じ梅(白加賀)の苗木が記念に贈られた。家族席ではわが子の成長した姿に涙する母親の姿も見られた。

卒業研究発表会

大学・短大は12月から2月にかけて各学科ごとに発表会を開催した。主な研究課題は次の通り。
■大学・人間生活学科(抜粋)
【生活総合コース】
▽大学生の他者意識と親密性について
▽他者の目によって感情を抑制する若者たち
▽女子大学生における障害と特別支援教育の意識に関する研究
▽郡山女子大生のアンケートを通して「福祉コース」
▽震災後の避難者に対する支援の現状と課題
▽おだがいさセンターを事例として
▽東日本大震災による障がい者の雇用の変化
【建築デザインコース】
▽住宅の玄関に関する研究
▽空間構成および意識の変遷
▽積雪地域における雪かき行動に関する調査
▽福島県只見町を事例として
▽家庭科教育における住居領域に関する調査
▽福島県高等学校を事例として

▽黒大豆の抗酸化能について
▽肥満傾向の学童を対象と行事食の岩瀬きゅうりを用いたデザート中のアミノ酸
▽福島県産と他県産の食材を用いた献立の放射線値の比較について
▽三大アレルギーに対応したお菓子の検討
▽家族内における食物の嗜好性について
▽ペルギービールを用いたパンの試作と嗜好性
▽塚の伝説 東北の塚の伝説
▽アングルの生涯と作品
▽日本における六地藏信仰について
▽庶民精神史の一形態
▽慶長派用六派
▽音楽療法について
▽ドールハウス制作について
▽木の素材に着目して



# ティールーム

コミュニケーション・フォーラム

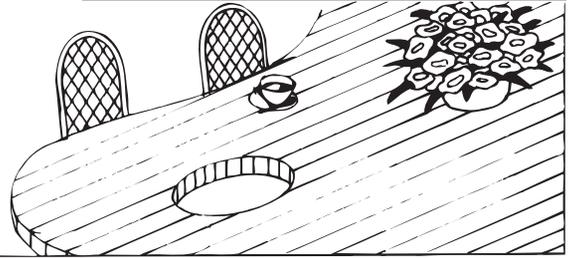


イラスト 佐藤 悦美

## 景観

上野 智子

さくら通りは路線バスの本数が多く、通学や通勤にもとても便利ですが、私がよく乗る時間帯は高校生が多く、皆単語帳を見たりテキストを見たりしている。ポトッと見ている窓の外には近代的な建物が続いている。

路線バスのサービスとしていつも感じるのは、ターミナル駅からある程度距離を行き、大概田園風景になると、お願いすればバス停でなくとも降ろして頂けるということ。もちろん運転手さんの一存ではなく会社の方針であるようだ。どことなく暖かみを感じるのは私だけでしょうか。先日、白河駅から御所街道をひたすら東に行く路線バスに乗る機会があった。白河駅南部旧市街の入り組んだ狭い道をぬける。窓から手を出せば、民家の軒に手が届きそうな

狭隘道路。思わず町の古さに感嘆した。クランクをいくつか曲がり白河旭高校を過ぎると御所街道に入る。そこからは一本道になる。

平成23年白河市は、景観計画を策定し、市長直属の部局を配した。この計画に対する並々ならぬ本気さを感じる。ユネスコが1992年に世界遺産の作業指針に文化的景観の概念を織り込んだが、日本にはもつと前にいわゆる古都保存法があったので、ユネスコを待たなくとも価値のある古い街並みは保存してきた。

福島県は、景観条例によって多くの市町村が独自の条例を設けている。白河市も、小峰城跡、南湖公園、白河の関跡などを重点的に整備しようとしている。歩いてみよし、バスから眺めてみよしの景観を期待している。

(短期大学部・幼児教育科教授)

## ハンドボールにかける青春



附属高等学校 食物科3年

上野 智子

本校にハンドボール部が新設されることを知ったのは、私が高校1年の半ば頃でした。以前からハンドボールに興味を持っていたので、2年生の部活動登録では迷うことなくハンドボール部に入部しました。それまでの私は、放課後に安積高校の練習を見学したり、パスをしたり、シュートを打つてみる程度のものでした。入部して、待ちに待った活動ができることでも心が躍りました。しかし不安もありました。それは、3年生がいなくて2年生は私だけ。1年生が7名の後輩達に馴染めるのだろうかということでした。そんな不安は毎日練習に取り組んでいくうちにどこか消えてしまいました。そ

れより私はハンドボールのルールに関しては無知に近い状態でした。必死で本を読んだり、顧問の先生に教えていただいたりして競技に向き合うほうが大変でした。私のポジションはキーパーです。シュートも止められず悔しい思いの連続でしたが、練習を重ねていくうちに、今ではキーピングもすっかりとできるようになり、自信がもてるようになりました。

ハンドボールを始めて1年過ぎたところですが、私にとっては高校生活の総仕上げの時を迎え、とにかくこの1年間、何事にも挑戦していきたいと思っています。

ハンドボール部は現在、新入生が11名入部し、部員が19名います。一つ一つの大会にかける思いも大きくなりました。日々の練習を大切に、試合では悔いの残らないプレーをして、キーパーとして、「止める」責任を果たし、最後に「ハンドボール部に入部して本当によかった」と思えるように精一杯頑張ります。

## 声を大きくして言いたかった



大学 人間生活学科4年

鈴木 詩織

私は友達が少ない。その現状に私は満足しているし、無理して友達をつくらうとも思わない。昔はそういう状況にいたことが苦しくもあったし、一人だけ取り残されている感じがしてなんだか景色がモノクロに見えた。そんな私が見ている光景に色をつけてくれたのは、本たちだった。私は友達の数はいらないが、本の数は多い。そのせいで最近、二つある本棚に本が入りきららず、仕方がなく本の上に本を重ねるといふことしか

できていない。それだから最近、どうにも本のほうから冷たい視線を感じるんだ。扱いが雑だよね、うん、知ってる。すまない、本たちよ。こんな私を許してほしい。

あれ、なんだか話が逸れた感じがするぞ。ええと、なんだっけ……。ああ、そうだ。私が言いたいののは、友達が少ないけども本がいてくれたからどうにかここまでやってこれた、ということだ。諸君、本はいい友達になってくれるよ。何でも知ってるし、好きなところに連れて行ってくれる。時には叱ってくれることもあるし、悲しみを一緒に感じてくれる。そんな本たちがそばにいてくれたから、私は孤独がそんなに悪いものではないと知った。本はモノクロにしか映らなかった景色を様々な色を贈ってくれたんだ。だからね、ねえ、その貴方。そうそう貴方です。少しいかな？もしも貴方が友達が少ないに悩んでいたら、本のページをめくってみてよ。きっと本なら「そんなこと気にすんな」といつてくれるから。

## 私の本棚

高村光太郎著

## 「美について」

角川文庫

郡山女子大学短期大学部

教授 久家 三夫

飯をすくったり混ぜたりする道具に、「しゃもじ」というものがある。彫刻家で詩人の高村光太郎が愛用していた「しゃもじ」が彼の手に馴染まず、改良するために小刀で削り直したところ使い勝手が良くなった。後日、台所にぶら下げておいた「しゃ

朝のコップ一杯の水は、寝ているあいだに失った水分を補給するという意味もあるのですが、それ以上に大切なのが「胃結腸反射」を誘導するということです。胃の蠕動運動を起

を送ります。ところが、朝食をとらないとか、忙しくて排便を我慢することが続くうちに、直腸がマヒして、いくら便が溜まっても、脳に知らせなくなってしまう便秘となるのです。習慣性便秘は、大部分が食事や排便習慣で起こります。対策としては、朝食をしっかりと食べ、食物残渣の多い野菜、果物をたくさん食べ、腸内細菌を増やすのに役立つ乳酸菌を多くとり、朝食後30分の余裕を持つことはとても大切です。

## 生活診断室

シリーズ 54

## 朝一番の水

郡山女子大学 食物栄養学科

講師 先崎 和子

健康を保つためには「朝、コップ1杯の水」と貝原益軒「養生訓」の中にあるように「1日3回の食事」、「適度な運動」を実践し、健康で長生きして人生を楽しみましょう。

「美」を見て、その形状が大変美しいことに気がついた、という話がある。これは「機能が形態を決定する」という造形上の機能主義的な考え方を象徴する話である。長い間、私はこの話が学生時代に読んだ、「美について」の中にあつたものと思っていたのだが、最近になって、その本の中には、そういった記述はないことがわかった。実際に学生時代から45年間も誤って記憶していたことになるが、実際にはどの本で読んだのか不明のままである。

この本「美について」は青春時代を過ごした街の書店で購入したものである。一時期、私の生活と共にあつた本であり、その時代も精神も染込んでいた。学生諸君にも是非一読をおすすめしたい。現在この本は絶版なので興味を持たれた方は私までご連絡ください。

# ようこそ 郡山開成学園へ

## 新任教職員の方々のご紹介

### 郡山女子大学

〔新採用〕 (4月1日付)

西山 慶治 教授  
岩手大学大学院農学研究科修士課程獣医学専攻修了  
所属 大学・食物栄養学

### 短期大学部

〔新採用〕

伊藤 哲章 講師  
筑波大学大学院教育研究科修了  
前県立磐城農業高等学校教諭  
所属 短大・幼児教育学

### 附属高等学校

〔本採用〕

三瓶 久常 教諭  
文教大学文学部英米文学科卒  
平成23年から期限付専任講師  
所属 附属高校・英語

加藤 あゆ美 教諭  
洗足学園音楽大学声楽科卒  
平成23年から期限付専任講師  
所属 附属高校・音楽

### 事務局

〔新採用〕

片寄 一富 職員  
東京電気大学工学部卒  
前須賀川警察副署長  
所属 学生生活部

笹田 浩司 職員  
北海道大学経済学部卒  
所属 放送大学福島学習センターへ出向

〔本採用〕

本多 泰治 職員  
いわき明星大学理工学部卒  
平成23年から期限付専任事務職員  
所属 教務部

### 期限付雇用職員

長田 城治 講師  
東海大学院総合理工学研究科総合理工学専攻修了  
所属 大学・人間生活学

武地 誠一 准教授  
東北大学農学部農芸化学科卒  
所属 短大・家政科食物栄養専攻

古川 督 講師  
九州保健福祉大学大学院社会福祉学研究科修士課程修了  
所属 短大・幼児教育学

齋藤 智子 講師  
愛知県立芸術大学器楽科ピアノ専攻卒  
所属 附属高校・音楽

畠山 瑞貴 教諭  
郡山女子大学短期大学部幼児教育学科卒  
所属 附属幼稚園

小林 亜沙美 教諭  
郡山女子大学短期大学部幼児教育学科卒  
所属 附属幼稚園

根本 真紗美 職員  
宮城県立宮城大学事業構想学部卒  
所属 入学事務・広報部

草野 優芽 職員  
いわき明星大学人文学部現代社会学科卒  
所属 入学事務・広報部

小橋 健人 職員  
福島大学経済経営学類卒  
所属 附属高校事務室

山本 正典 職員  
早稲田大学商学部卒  
東邦銀行からの出向  
所属 附属高校事務室長

### 昇任

大学／講師 郡司尚子(助教)  
短大／准教授 磯部哲夫(講師)・助手(授業補助担当) 齋藤理沙(学務担当)  
教務部／連携係長 鈴木光洋(主任)

任)・主任 佐藤浩平  
入学事務・広報部／係長 結城マチ子・係長 菅野英樹  
平成25年度で退職された方々  
3月末日で、次の方々が(学)郡山開成学園を退職なさいました。  
これまでも、尽力に心より感謝し、今後のご活躍ご健勝をお祈り申し上げます。(敬称略)

### 〔第二定年〕

大学／諸岡信久教授・深谷笑子 准教授  
短大／野沢謙治教授  
事務局／大和田三彦総務部長  
〔第二定年〕  
大学／藤原建樹教授

### 〔依願退職〕

大学／茂木光代准教授  
短大／村田清教授・松谷ひろ子 講師・京免徹雄講師  
幼稚園／戸梶直子教諭・近内福美教諭  
事務局／宮本仁職員・半沢通職員

### 〔家庭療／今野千絵里職員〕

短大／須田良子教授・近藤栄昭 教授・奥秋和夫准教授・滝田良子 准教授・鈴木典子助手  
附属高校／柴早苗講師・齋藤一郎 講師  
事務局／安齋彰夫人学事務部長・佐藤圭佑職員  
平成26年度に再雇用された方々  
大学／諸岡信久教授・藤原建樹 教授

### 異動

富本栄次 附属高校教諭(大学・食物栄養学科)  
ダニエル・ホーナー 大学・人間生活学科講師(附属高校)  
ポール・バーナミー 短大・幼児教育学科講師(附属高校)

# NEWS 学園ニュース

### 〔表彰〕

平成26年度  
福島県私立中学高等学校協会  
永年勤続表彰  
▲勤続25年  
皆川 智彦(附属高校教諭)  
熊田 敦也(秘書課秘書係長)

### 第65回春季ハンドボール選手権大会で初戦突破!

附属高校ハンドボール部は、第65回春季大会で、橘を相手に27・15と初戦を突破。しかし、次の光南に18・25と惜しくも敗退した。

### 附属高等学校校長杯で大槻中が初優勝!

第25回郡山女子大学附属高等学校校長杯バレーボール大会が2月23日に行われた。大会には県南・県中部から12校が参加して熱戦を展開、大槻中学校が初優勝を飾った。結果は次の通り。

優勝 大槻中  
準優勝 小野中  
3位 郡山二中  
守山中



熱戦が繰り広げられた

### 第25回蔵のまち喜多方スプリングオープン卓球選手権

▽女子・高校一般トーナメント  
第3位

### 全日本ジュニア音楽コンクール銀賞

高校ジュニアクラシックコンクール  
高校ピアノ部門 第5位  
渡辺 郁美

### 第17回県弓道遠的選手権大会

▽高校の部  
2位 小山 幸  
6位 中村 優香  
2人は7月に行われる国体最終予選会に出場。

### 陸上・静岡グランプリ 吉田文代教員が連覇!

2014日本グランプリシリーズ  
第30回静岡国際陸上競技大会が5月3日、静岡スタジアムで行われ、吉田文代選手(郡大附ACC)が12メートル94で2連覇を達成した。

### 平成26年度福島県高校体育大会出場 チーム・個人

バレーボール部  
卓球部 団体  
ダブルス  
伊藤 明日香・金澤 綾花  
紺野 結希・根本 向日葵  
シングルス  
金澤 綾花・伊藤 明日香  
紺野 結希

### テニス部 団体

陸上競技部 4×100リレー  
円盤投げ 三浦 光妃  
砲丸投げ 三浦 光妃  
剣道部 団体  
個人 橋本 由香  
弓道部 団体  
個人 小山 幸  
ハンドボール部  
新体操部

### 第61回全国高等学校放送コンテスト県南大会

▽アナウンス部門  
優秀1席 松本みさと  
優秀6席 小林 優実  
\*県大会出場  
佳作4席 松本 裕美

### 朗読部門

優秀1席 山田 桃子  
\*県大会出場  
創作ラジオドラマ部門  
優秀1席  
\*県大会出場

### 大学・人間生活学科 市民講座開催のお知らせ

郡山女子大学家政学部人間生活学科主催の市民講座「暮らしの1ページ」が次の通り開催される。

●開催日／7月26日(土)13:00~15:30  
●場所／創学館  
●統一テーマ「暮らしの1ページ」  
コース毎の講師と講演のテーマは次の通り。

▼生活総合コース／武井玲子教授  
「環境にやさしい衣生活」  
▼福祉コース／渡邊英勝講師  
「地域社会とボランティア」その基本的視点  
▼建築デザインコース／山形敏明教授  
「快適な住生活」

※入場無料  
受講ご希望の方は、大学・人間生活学科まで。  
0249324848

### 春高バレー強豪に善戦 大和南の高さに屈す

第66回全日本バレーボール高校選手権大会(春高バレー)が1月5日、東京体育館で行われた。  
磐城一高を3・0で破り、6年連続17回目出場の附属高校は、1回戦で優勝候補の大和南(神奈川第一代表)と対戦。第1セットは立ち上り固さが見られ攻撃のリズムが合わず、連続失点で差をつけられた。第2セットは、目黒選手のバックアタックや高橋愛選手のスパイクが決まりタイに持ち込んだ。第3セットは大和南の高い打点のスパイクを懸命に拾ったが、最後は突き放された。



強豪を相手に善戦 春高バレー

応援団席には、生徒、父兄、関係者など500人が詰めかけ、ピンクのバレーボールを叩き、懸命に大声援を送った。

### 河津桜(かわづざくら)が咲きました。

平成24年度永年勤続者表彰を受けた方々から寄贈された、高校正門の「河津桜」がピンクの美しい花を咲かせた。来年は寄贈された19本全部が咲くといいですね!



可愛いピンクの花が...

### 「超高齢化社会における健康問題」を考える 市民フォーラムを開催

本学と大学・食物栄養学科主催の第10回市民フォーラム「超高齢化社会における健康問題」が3月8日、芸術館大ホールで開かれた。紺野信弘教授が「わが国の人口構成の変遷」、根本恵美子講師が「高齢者の食事」、福島医大の安村誠司教授が「超高齢化社会における健康問題」のテーマで講演した。

講演のあと、広井勝教授の総合司会で講師ら3人による総合討論も行われた。会場には市民など1000人が詰めかけ、メモを取るなど熱心に聞き入っていた。



熱心に聞き入る会場の皆さん

### 日向さんに支援金

国際ソロプチミスト郡山(岡部良子会長)は、国際ソロプチミストアメリカ連盟のヴァイオレット・リチャードソン賞に応募した附属高校音楽科2年の日向杏珠翔さんに支援金3万円を贈った。この賞は地域や学校でボランティア活動を行っている若い女性を称えるもの。  
日向さんは、福祉施設などで演奏したり、手芸品を届けたりする学園全体での取り組みなどを例会で説明した。



支援金を手にする日向杏珠翔さん

### 渋谷さん(3年)が最優秀 JA「ふくしま米愛情弁当コンテスト」

県産米と県産食材を使用したオリジナル弁当「ふくしま米愛情弁当コンテスト」が5月24日、郡山市の農産物直売所「愛情館」で開かれ、附属高校3年渋谷奈那さんの「福うま和風弁当」が最優秀に輝いた。  
コンテストには県内外から135作品の応募があり、一次審査を通過した6点を審査。全農県本部の関係者6人と「愛情館」の来場者



グランプリに輝いた渋谷さん

100人も投票した。渋谷さんの作品は炊き込みご飯、マグロ和風ムニエル、ホウレンソウなどが彩りよく添えられており、「忙しい父に感謝を込めて作りました」と喜びを語った。

### 冨本教諭が「トップコーチ」 指定指導者になれる。

2020年東京五輪などに向けて若い世代の選手を育成する「ふくしまから世界へ!」『ふくしま夢アスリート』育成支援事業の競技力向上

の推進役を担う「トップコーチ」養成事業の指定指導者10人が県体育協会から発表された。  
本校からは「ハンドボール」の冨本栄次教諭が選ばれ、様々な講習会などに参加し、「ふくしま夢アスリート」を育成する。

### モバイルサイトをご覧ください。

携帯電話からQRコードを読み込むことで、モバイルサイトにアクセスできます。QRコード読み取り非対応の方は、左記URLを入力することでモバイルサイトへアクセスできます。  
<http://www.koriyama-kgc.ac.jp>



### 紙上美術展 73

### 美術科

郡山女子大学附属高校美術科3年で油絵を専攻している2名の作品です。美術科では、3年間の集大成として卒業作品展を実施しており、その展示に向けて制作した最初の作品です。



藤橋 加穂

### 愛憎

F50号

人はなぜ死ぬのか、そしてなぜ人が人を傷つけるのか。そんなことを思いながら今回の絵を描きました。命という物に対しての考えは十人十色だと思いますが、私なりの命に対する考えをこの絵で表現できたと思います。



鈴木 花菜

### Conflict

F50号

自分に負けそうになった時期があり、強くなりたいと思うようになりました。その強くなりたいという気持ちをライオンに込めて表現しました。卒業作品展に向けた一番目の作品で良いスタートが切れたと思います。

### 木もれ陽

清々しい新緑の季節を迎えた。芽吹いた若葉の成長と共に、新入生の皆さんの緊張も幾分和らぎ、学園生活を謳歌していることと思う。  
今年2月の大雪は記録的なものとなり、ライフラインや交通機関は乱れ、人的・物的被害をもたらした。学園も一面の雪に覆われ、人ひとり通る道さえ除雪するのもにも困難であった。雪国の学生・生徒らは、自宅では日常であり、特に驚く事ではないと笑顔で答える。降り積もる雪の前に、ふと小学校の先生と、女の子の微笑ましい話を思い出した。

「理科のテストで「氷が溶けたら何になる?」の問題に、女の子は「春になる!」と解答した。先生はその答えにマルを付け、名前の所には三重マルを付けた。」

春は名のみでまだまだ遠く、雪も一向に止む気配はなかったが、気分は花マルであった。  
杜の広場の白梅が、香しい匂いと共にそとと花開き春の訪れを告げると、花々が一斉に顔を出し、美しく咲き乱れ春爛漫の季節を迎えた。開花を心待ちにされていた桜は、入学式に遅れたが、薄紅色の姿を長く留め、皆を和ませ楽しませてくれた。パンジー、牡丹、ツツジ、バラ、紫陽花。学園内にはさまざまな草木が育てられ、四季を通して彩りを添え、憩いの時を与えてくれる。時には歩みを止め、生きいきと花開き謳歌する草木の今の時を凝視したい。

氷が溶ければ「水」になるが、春を待ち侘びる女の子の感性を、大切に受けとめてくれた先生の心温かさ。答えは一つではない事もある。「氷が溶けたら何になる?」皆さんは何と答えるだろう。  
(孝)